

編集者のことば

本号は、本研究所の共同研究2「大都市の環境と地域社会に関する総合的研究」の一環としてまとめられた8編の論文を中心に「住民の健康と居住環境」と題する特集号を組み、併せて投稿論文2編と講演記録を掲載することとした。内容は大きく三つの部分からなる。

一つは、住民の健康に関する5編の論文からなる。星旦二他「都道府県別平均寿命の過去30年間の経年変化とその特性」は、1995年までの都道府県別・男女別平均寿命を比較分析し、東京都の男女別平均寿命の特性を明らかにした。梶井康子他「都市部大学に通う女子大生の体型と体構成評価に関する研究」は、女子大生の身体特性の現状を調査し、体型と体構成によるそれぞれの肥満判定の差異と関連性を分析し、それら評価方法の妥当性・信頼性について検討した。星旦二他「東京都特別区別平均寿命と人口・社会経済要因との関連」は、東京都区部の平均寿命の現状を分析し、その平均寿命と三大主要死因の標準化死亡率からみた人口要因及び社会経済要因との相関関係性を明らかにした。上野千絵他「東京都特別区における健康水準の構造分析」は、都市内部における健康水準の地域格差の基礎調査として区部を対象とした平均寿命と三大主要死因の標準化死亡率について主成分分析を行い、これをもとに各区間の地域差とその要因を明らかにした。綿祐二他「都市在宅重症心身障害児の介護者のQOL指標に関する研究」は、在宅要介護重症心身障害児をもつ親の介護生活を対象に、その発生から受容までのうち状況の最も悪かった時期と良かった時期の介護生活の現状を比較分析して介護者のQOLを捉える要因を抽出し、そのQOL指標を検討した。

二つは、土地利用、居住構造及び環境共生型住宅地に関する3編の論文からなる。吉川徹「同辺率にもとづく東京都多摩地域南部の土地利用の集塊性の分析」は、メッシュ土地利用データをもとに同種の土地利用の集塊性を把握する手法である同辺率を用いて、東京都多摩地域南部の京王線一帯における土地利用の集塊性を分析し、土地利用パターンの特性を明らかにした。松本真澄「成人未婚者の東京圏内における居住実態」は、東京圏における成人未婚者の居住実態を国勢調査にもとづき分析し、未婚者の単独世帯率の動向と地域分布ならびにその住宅事情を所有関係と建て方の面から明らかにした。榊原依子他「環境共生型住宅地整備に関する考察」は、環境共生型住宅地の意義を明らかにするとともに、これを住環境整備事業のひとつとして位置づけ、その現況を分析し、事例研究によりその課題や制度上の問題点を指摘した。

第三は、2編の英文投稿論文と学術講演会記録である。萩原清子「分権化と中央地方政府間関係」は、日本の政府構造と財政システムの分析により分権化の必要性和中央政府による地方政府の効率的コントロールの方法を明らかにするとともに、望まれる分権改革推進の方向を提示した。柴田徳衛「日本の公共投資」は、日本の公共投資の実態を道路整備と自動車に関する事例研究を通じて分析し、その課題と問題点を明らかにしたものである。さいごに、講演記録は、1998年5月に催されたアメリカのルイビル大学教授ハンク・サビッチ博士の「国際化時代における先進国の都市発展」と題する講演を収録した。

1998年9月

福岡峻治